

暁木会会員 各位

平成 30 年 3 月 吉日  
暁 木 会  
<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第36号では母校の近況報告、就職状況、今年から暁木会にご入会される新会員の皆様の思い出メッセージ、学生諸君のインターンシップの報告、第12回神戸大学ホームカミングデイの開催報告など幅広く会員様から寄稿して頂いております。また、平成29年度総会のご案内も掲載させていただいております。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。

今後とも大学、学生、会員等の皆様に幅広くニュースをご通読して頂けますよう広報Gも頑張っ参りたいと考えております。皆様にもご協力の程お願いいたします。

## 母校の近況報告

平成 29 年度 専攻長・学科長 教授 芥川真一

暁木会会員の皆様には日頃から本専攻・学科の運営に多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。

平成 27 年 10 月 1 日に、教員組織と教育・研究組織が分離されました。それを受けて、本専攻・学科に関連する教員は工学域という教員組織に所属し、そこから工学研究科市民工学専攻、都市安全研究センター、科学技術イノベーション研究科などの教育・研究組織に配置されるというシステムになって 3 年目を迎えております。平成 29 年度における人事関連の状況（10 月 31 日に四辻弘文助教が退職、12 月 1 日に片岡沙都紀助教を配置替え、10 月 1 日に小川まりこ助教を採用）を反映した平成 30 年 3 月 1 日における本専攻の教育研究体制は表-1 の通りです。

今年度は、JABEE の受審を見送ることを決定しましたが、その過程で得られた教育の質を上げるためのノウハウを上手く活かし、且つ教員間で研究テーマに関する最新の情報を交換して新たな価値創造を目指したランチョンセミナーを開催するなどして教育・研究活動に鋭意努力しております。

表-1 市民工学専攻・市民工学科の教育研究体制（平成30年3月1日現在）

講座	教育研究分野	教授	准教授・講師	助教
人間安全工学	構造安全工学		三木朋広	
	地盤安全工学	澁谷啓		片岡沙都紀**
	交通システム工学	喜多秀行 井料隆雅		
	地盤防災工学		竹山智英	
	地震減災工学	長尾毅*	鍬田泰子	
	流域防災工学	藤田一郎	小林健一郎*	
環境共生工学	環境流体工学	内山雄介		齋藤雅彦
	水圏環境工学	中山恵介		
	地圏環境工学	大石哲* 梶川義幸 <sup>R</sup>	加藤正司	吉田龍二 <sup>R</sup> 小川まりこ*
	広域環境工学	飯塚敦*	橋伸也*	
	都市保全工学	森川英典 芥川真一	橋本国太郎	
	都市経営工学	小池淳司	織田澤利守 瀬谷創	祇園景子

無印 主配置は工学研究科市民工学専攻

\*主配置は都市安全研究センター

\*\*主配置は科学技術イノベーション研究科

<sup>R</sup> 理化学研究所とのクロスアポイントメント

教員の教育・研究活動における活躍の場は国内だけにとどまらず、アジア・アフリカ・北米・欧州など様々な地域との連携や共同プロジェクトが展開しています。本年9月にはオーストラリアの王立メルボルン工科大学との共同ワークショップが企画され喜多教授が専攻を代表して出席し、新たな共同研究のテーマが模索されようとしています。また、最近ではクロスアポイントメントという新しい雇用システムが導入され、本学の教育・研究に関係する教員が複数の組織に所属した状態で活動するという時代になってきました。また、教員の長期海外派遣も活性化しており、今年度においてはカリフォルニア大学ロサンゼルス校、同サンディエゴ校、スウェーデンの高レベル放射性廃棄物処理問題の研究所などに教員が長期派遣されています。

また、海外からの留学生受け入れ強化に関連しては、入学手続きの合理化を目的として博士課程入試の一部をインターネットのリアルタイム画像通信ソフトを利用して実施できるように調整が進められています。また、インドネシアのシアクアラ大学とのダブルディグリープログラムの立ち上げに向けた準備も進んでおり、神戸大学の国際化に向けた活動が推進されています。

平成28年から始まったQuarter制が2年目を迎えたことを受け、本年度の2<sup>nd</sup> Quarterは

学部2年生のギャップタームとなりました。この期間（約3ヶ月）は国内外でのインターンシップや短期留学などを通して学生に有意義な体験をさせることが目的で設置されたものです。初めての試みとなりましたが暁木会の皆様のご協力もあり、学生は多様な体験（グローバルチャレンジプログラムでスウェーデンに派遣2名、ギャップターム型インターンシップ3名、学科紹介のインターンシップ15名（国土交通省近畿地方整備局、兵庫県、神戸市、西宮市など）、海外渡航14名（カナダ、アメリカ合衆国、タイ、オーストラリア、カンボジア、フィリピン、スウェーデン）、等）をすることができたようです。これ以外にも、土木学会関西支部90周年事業として行っている学生海外渡航支援によって市民工学科から2名が合格して渡航したほか、修士1年の学生がラオスで建設中の水力発電所への海外インターンシップも体験しています。

最近では、工学部後援会教育研究補助金を利用して測量実習に必須の測量機械購入もさせていただきました。また、国立大学法人としての必要な手続きとして、法人文書の5年間の保存が義務付けられ、これに関連して、それより古い文書は原則として廃棄する必要があることが指摘され、これに関連して、それより古い文書は原則として廃棄する必要があることが指摘され、これまで自然科学の図書館に所蔵されてきた本専攻の歴代の学生の修士論文などもその対象となることが確認されました。この問題については今後適切な処理について検討される予定です。また、時代を反映した変化の一つとして、12月1日に数理・データサイエンスセンターが設置され、本専攻の学生も今後積極的に関連する講義を履修することが期待されています。

平成30年度の専攻長・学科長は澁谷啓教授、副専攻長・副学科長は中山恵介教授、就職担当は芥川真一教授、教務担当は瀬谷創准教授です。地域に根ざした教育・研究活動を展開し、且つ国際的な活動も活性化してゆくためには暁木会の皆様方のご支援、ご協力が欠かせないものとなっています。今後共、引き続き更なるご指導・ご鞭撻の程を重ねてお願い申し上げます。

## 就職状況の報告

平成 29 年度卒業・修了生就職支援担当 教授 喜多 秀行

本年度の就職支援担当を務めさせていただきました。就職スケジュールの変化やインターンシップ制の導入など就職を取りまく環境の変化に加え、地方公務員志望が半減するなど学生のマインドにも変化が見られますが、暁木会会員の皆様には求人、情報提供、リクルーターとしてのきめ細かなご支援など、限られた情報しか持たない学生が希望を持って社会に出られるよう多大なご協力を賜りました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

来年度の就職支援担当は芥川真一教授です。高い志と高度な技術を身につけた修了生・卒業生が、さまざまな場所で存分に力を発揮し、社会に貢献しうる人材を輩出するよう私共も意を尽くしますので、引き続きご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月修士修了・学部卒業予定者（\*印）の進路数

就職者数	19 人*		
	37 人		
進学者数	43 人*	神大	39 人*
		他校	4 人
留年・休学・未定者数	5 人*		
	1 人		

平成 30 年 3 月修士修了・学部卒業予定者の就職内定先・進学予定先一覧

業種	人数	就職内定先・進学予定先
国家公務員・独立法人	1	独立行政法人水資源機構(*1)
地方公務員等	6	東京都(1), 大阪市(1), 兵庫県(1), 神戸市(*2), 宝塚市(*1)
鉄道, 航空	9	東京急行電鉄(*2), 東京地下鉄(1), 阪急阪神ホールディングス(2), 西日本旅客鉄道(1, *1), 東海旅客鉄道(1), 西日本鉄道(1)
高速道路	3	首都高速道路(1), 西日本高速道路(2)
総合建設業, 道路	5	清水建設(1), 鹿島建設(1), 大林組(1), NIPPO(1), 竹中土木(*1)
コンサルタント	4	中央復建コンサルタンツ(1), パシフィックコンサルタンツ(1), 地域未来研究所(1) ウェスコ(*1)
鉄鋼, 鉄構・プラント	4	Hitz 日立造船(1), JFE エンジニアリング(1, *1), 日鉄住金テックスエンジ(1)
エネルギー	3	東北電力(1), 中部電力(1), 大阪ガス(1)
橋梁	2	横河住金ブリッジ(1), 駒井ハルテック(*1)
IT, シンクタンク	6	価値総合研究所(1), ケイ・オブティコム(1), 野村総合研究所(1), エイチーム(1), オービック(1), Speee(*1)
住宅, 不動産	3	三菱地所(1), 三井不動産(*1), 大和ライフネクスト(*1)
その他メーカー, 商社, 流通他	9	日本政策投資銀行(1), 富士通(1), 住友商事(1), 地域ブランディング研究所(1) 南通職業大学(1), ゼンショーホールディングス(*1), 伊藤忠商事(*1), 三井住友銀行(*1) リクルートスタッフイング(*1)
進学, 留学	47	神戸大学大学院前期(*39)後期(4), 京都大学大学院(*3), 東京大学大学院(*1)
その他	6	未定(*1), 留年(*4)

(2018 年 1 月 30 日現在)

( )内は人数。\*印は学部卒業生。

## ギャップターム海外渡航

B2 伊藤史佳

派遣先 ワシントン DC(アメリカ)

今回私はギャップタームを利用しアメリカのワシントン DC に 7 週間滞在し、英語を学ぶとともにアメリカの歴史、文化、建築などを見学しました。

主に、午前中から 2 時ごろにかけて英語を勉強し、授業の後、首都ワシントン DC にあるスミソニアン博物館、国会議事堂などを訪れました。スミソニアン博物館は 1848 年にイギリスの科学者ジェームズ・スミソンが「知識の向上と普及に」と委託した遺産を基金とし作られ 9 つの博物館とその他美術館などがあります。

滞在中はアメリカ人宅にホームステイをし、衣食住などのアメリカのライフスタイルを体験することができました。

交通機関としては主に地下鉄を使いました。円形に近い断面を持った広大な地下空間に立体的な通路が配置され壁面には、統一的な凹凸のあるコンクリートのブロックを用いたトンネルとなっていてユニークで美しい構造を持っています。

しかし近年車両や設備の老朽化により問題が生じ修理のために運航が停止したこともありました。日本でもインフラの老朽化が深刻な問題となっておりアメリカの事例から有益な情報が得られるかもしれないと思いました。

今回の経験をとおして、英語でのコミュニケーションでうまく伝わらないこともありましたがその中で積極的に自分から行動することの大切さを学びました。

これから大学で専門知識を学ぶ中で再び海外に行く機会があれば次回は専門的な研究などをしたいと思いました。

最後になりましたが暁木会の皆様には、助成金を出していただきこのような経験をすることができたこと深く御礼申し上げます。



写真：ホストファミリーと Kennedy Center にて

## インターンシップ（神戸市役所）

B3 木村翠希

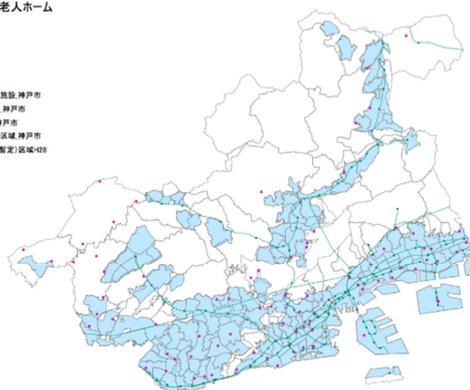
相手先機関名：神戸市役所住宅都市局

私は、9月4日から8日までの5日間、神戸市役所住宅都市局でのインターンシップに参加させていただきました。その中で都市計画課の計画係と土地利用係、公共交通課でお世話になりました。私は将来神戸市の公務員として市民の生活をより豊かにしたいと考えているため、今回インターンシップへの参加を志望しました。

まず都市計画課計画係では「ニュータウン」と「コンパクトシティ」について学びました。ニュータウンは完成直後は魅力ある街ではありますが、人と共に街も老化し活気がなくなってくるという問題点を知り、街の活性化のために市が支援していることを知りました。また、人口減少が進む日本において重要となるコンパクトシティについて教えていただき、GISというソフトを使用していること、また、その分野において先進的なドイツへの視察なども実施しているということを知り、私たちが普段意識せず生活している街を形成するために思考を凝らしていると感じ、街づくりに密接に関わる一面を実感できました。右の図は実習中に作成したGISを用いたデータです。

特別養護老人ホーム

凡例  
 ● 1423福祉施設 神戸市  
 ● 1425施設 神戸市  
 ● 1426駅 神戸市  
 ● 1427通学区域 神戸市  
 ■ 市街化調整区域 428



次に都市計画課土地利用係では市街化区域と市街化調整区域の変更に関わる業務を体験させていただきました。講義で習ったことではありましたが、実務では奥が深く市民の方の声なども聞きながら行うということにやりがいを感じました。この線引きは5年おきに行っているということも知りました。

また、公共交通課ではネットモニターアンケートの集計をさせていただき、インターン生である私の考えにも耳を傾けてもらえたことに非常に喜びを感じました。

他にも多くのことを学ばせていただいた5日間であったと感じます。また、今まで漠然と抱いていた都市計画という業務を実際に体験することでより都市計画に関わる仕事がしたいという思いが強くなりました。お忙しい中お時間を割いていただき温かく迎えていただいたことで、有意義な時間を過ごすことができました。この恩返しという意味でもこの経験を活かし、将来何らかの形で社会に貢献できる社会人になれるよう、また来年正式な一職員として一緒に業務に携われるよう頑張ります。

5日間ありがとうございました。

## インターンシップ（日建設計シビル）

B3 西村慧音

相手先機関名：株式会社日建設計シビル

私は9月4日から9月15日までの二週間(実質十日間)、日建設計シビルのインターンシップに参加させていただきました。日建設計シビルの業務は総合コンサルタントとして計画から設計まで多岐に渡りますが、その中でも私は直前の土木学会支援の海外派遣事業の経験を生かしたかったことと、都市計画に興味があったので、開発部門計画部で実習をさせていただきました。担当したプロジェクトは「千里山ニュータウン計画」と「岩国中心市街地活性化に関する提案」の二つで、この二つに関して自分なりの提案をプレゼン方式で部署に発表することが課題でした。

### \* 千里山ニュータウン計画

大阪府吹田市千里山地区に新たな宅地開発を提案するというもの。千里山の土地柄などの分析から始まり、敷地内道路計画、ターゲットによるエリア分け、緑地など公共空間の配置、ストラクチャデザインと構想を進めていきました。千里山の大阪の高級住宅地という特性や周辺に学術機関が多いこと、そしてニュータウンにこそ将来性が必要なことなどに注目し、「交流と緑」をコンセプトに土地利用図/緑地計画図/車動線図を作成しました。最終的には人々が交流する拠点やそのストラクチャデザインまで考え、イメージの湧きやすい提案を心がけました。

いつも土木、公共建造物を主に学んでいることもあり、宅地開発に取り組むことはとても新鮮で、基礎的な学びも多かったです。また土地利用図作成では様々な要点を一枚の図にまとめる大変さを学びました。

### \* 岩国中心市街地活性化に関する提案

山口県東部の岩国市において、在日外国人との交流をテーマとした、中心市街地の活性化を図るための提案を考えるというもの。まず岩国の中心市街地の現状を市民アンケート/Google Map などから分析し、在日外国人と市民の距離を近め「外国人がいる町」が魅力となるようなまちづくりアイデアを考えていきました。”起爆剤”となる「ストラクチャ」と「仕組み作り」、そして”その後のストーリー”まで提案しました。いわゆるエリアマネジメントのような事業で、案を推敲中にストラクチャ先行にならないよう軸コンセプトに立ち返って考えることが難しかったです。

日建設計シビルでのインターンで、総合コンサルタントの開発部門ではディスカッションを通して主軸からぶれないアイデアを生み出す発想力とそれを相手に”上手く”伝えるプレゼン能力が求められることを実感しました。難しくはありましたが、新たな”まち”を様々な形で提案することができとても面白かったです。

最後に本インターンに関わってくくださった皆様にこの場をお借りしお礼申し上げます。

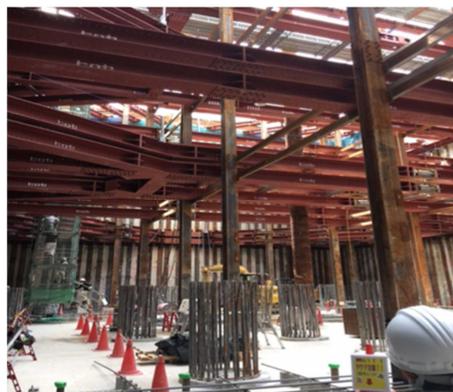
## インターンシップ（大成建設株式会社）

市民工学科 3回 青木駿太

相手先機関名：大成建設株式会社関西支部

西部処理場高段ポンプ棟工事作業所

私は今回、大成建設株式会社関西支部の西部処理場高段ポンプ棟作業所で約1週間お世話になりました。1週間のプログラムを通して様々なことを体験させていただき、数多くの貴重な学びを得ることができました。そこで、今回私が体験させていただいたプログラムの一部を紹介していきたいと思います。まず、現場見学です。神戸市にある下水処理施設のうちの1つである西部処理場は、昭和40年の運転開始から約50年が経過し老朽化が進んでいる事から改築更新事業が進められています。今回現場で行われていたのは、この事業の中で、下水の流入量の調整を行いやすくするポンプ場の建設でした。5日間を通して毎日現場を見学させていただいたのですが、工事の進展具合を追っていくのはとても興味深いものでした。実際に作業が行われている地下深くまで案内していただき、遮水シートの設置方法や異なる鉄筋のつなぎ方など細かいところまで詳しく知ることができ非常に勉強になりました。次に現場管理演習について紹介します。現場管理演習では、様々な情報から工程を導き出し工程表を作成する工程管理や、自ら設定した作業内容から工程や危険有害要因の特定・評価を行う安全管理を体験しました。工程を組むうえで、手順の効率性や工程間の余裕、また各工程で予想されるさまざまな危険有害要因など、本当に細かいところまで気を使わなければならないと知り、実際に現場を管理することの難しさを学ぶことができました。この他にも測量実習や設計演習など様々なプログラムを用意していただき、とても実りある5日間となりました。



今回のインターンシップは、多くの成果を得ることのできた、非常に有意義なものとなりました。実際に現場を見学させていただき、また実際に働いていらっしゃる職員の方々のお話を聞き、ゼネコンとよばれる仕事についての理解をより深めることができました。また、実際の業務で必要となる知識などを演習や実習を通して教えていただいた中で、現在大学で学習している内容をしっかり生かすことができると分かったのは、とても大きな発見でした。今回のインターンシップで、大学での学習の重要性を再認識でき、また自分の進路についてしっかりと見つめ直すことができました。

最後になりますが、今回のインターンシップで関わってくださった職員の方々の皆さま、大変お世話になりました。本当に優しい方たちばかりで、自分も将来こういう職場で働きたいと感じた5日間でした。このインターンシップで学んだことを最大限、今後の学習や就職に活かしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

## 研究報告（ロサンゼルスでの長期在外研究）

市民工学専攻 教授 内山 雄介

縁あって米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）大気海洋科学科（理学系）に2016年9月中旬から2017年9月中旬までの約一年間にわたって滞在し、国際共同研究に従事する機会を得ました。本稿では在外研究に至る経緯、UCLAでの研究活動、米国での生活、神戸で留守番していた学生との連携について報告したいと思います。

### 1. 経緯

H28年度から文科省による科学研究費に「国際共同研究加速基金」が新設されました。この基金は、科研費の基盤研究などに採択されている若手研究者に対して、海外の先端的な研究機関と共同研究を行うこと、特に研究代表者自身が海外の研究機関へ長期滞在することで当該研究を発展させる、という趣旨の研究費です。本学工学研究科は若手教員に対してこの研究費への応募を奨励しており、当時ギリギリで「若手」の資格を有していた私はこの基金に応募し、幸運にも採択されました。私の研究テーマは海洋流動モデルの高度化でしたので、日頃から使っている領域海洋モデルROMSの開発チームで、私の出身ラボでもあるUCLAのJames C. McWilliams教授の研究室に出戻り参入することにしました。

### 2. UCLAでの研究活動

McWilliams教授のラボには年約一回のペースで定期的に訪問していたので、渡航後の共同研究も実にスムーズに開始できました。当時研究途中だったテーマを含め、「離岸流の低周波3次元乱流構造」、「海岸地形の非一様性による海浜流システムへの影響」、「陸棚海域におけるサブメソスケール組織現象（SCSs）」の三つを行う計画を立てました。一つめの研究は渡米前から着手していたテーマで、渡航から三ヶ月半ほどで論文①にまとめることができました。ただ、米国Scripps海洋研究所の某教授の学説を半ば否定する内容を含んでおり、しかもその某教授本人が論文の査読者になったため論文の審査は困難を極めました。クリスマス休暇前に投稿したところ、年明け早々に15ページにも及ぶダメ出し満載の査読意見とともに「却下」という結果が返ってきました。その後、二ヶ月かけて追加の解析を行ったり論文の構成を変えたりして同じ査読者に再挑戦し、今度は何とか採択されました。

二つめはトルコ人のポスドクと協同で実施したテーマで、岬や湾など砕波帯よりも長いスケールでの岸沖地形変化が海浜流の構造を大きく変化させることを発見し、解析した研究でした。なかなか数値モデルの設定が定まらず数ヶ月にわたって試行錯誤しましたが、帰国間際によりやく論文②として結実しました。三つめはアメリカ人の博士課程学生と取り組んだテーマで、南カリフォルニア湾の陸棚域で発達するSCSsに対して乱流温度風平衡理論という新しい理論を用いて解析した研究であり、斬新さも相まって比較的早々に論文③として採択へと至りました。さらに論文①から派生した斜面上の双子渦の消長に関する三次元解析（論文④）や、ランダムな入射波による海浜流の複雑化などに関する研究も新たにスタートすることができました。最後のテーマは私と入れ替わりでUCLAに着任した中国人ポスドクが主体となって現在鋭意実施中です。このように、2017年9月の帰国後も、UCLAと神戸大内山研との国際共同研究は極めて順調に継続しています。

### 3. 米国での生活

今回の渡米以前に私は通算で八年間アメリカに住んでいた経験があり、生活面に対する不安は全くありませんでした。唯一の相違点は、今回は家庭の都合で単身赴任である、ということだけです。単身赴任くらい問題ないと高をくくっていましたが、実際には想定を遥かに越えた困難でした。困難の一つは食事で、二つめは日本語でした。ご存知のように米国の庶民レベルのグルメ事情は日本に遠く及ばず、端的に言う「何を食べても基本的に美味しくなく」わけです。それでも今までの経験を総動員して、牛丼チェーンの Yoshinoya、中華風アメリカ料理でおなじみの Panda Express、困ったときの Hawaiian BBQ、なぜか日本人の舌にマッチするメキシコ料理など、チープなわりに口に合う食事に依存して生きていましたが、渡米後三ヶ月で完全に全ての食事に嫌気がさしてしまいました。苦手な自炊をしたり、エチオピアなどのエスニック料理を日替わりで試したりと試行錯誤しましたが、食事には最後まで苦労しました。最終的には日系スーパーで毎日二食分の弁当を買う、という何とも情けない毎日を送っていました。二つめの日本語については、職場では四六時中英語を使うのは仕方ありません。ただし、夜帰宅して晩酌してゆっくりしているときくらいは気兼ねなく日本語で話をしたいのですが、単身ですので常に相手がいるとは限りません。Skype や Line があるので日本との連絡に支障はありませんが、時差があります。私の晩酌中、日本の家族は午後の忙しい時間帯にあたるため、酔っぱらいの相手はしてくれません。どうするかというと、「研究指導」のために日本の研究室に残してきた学生諸君に相手をしてもらうことになるのでした。学生諸君、根気よく付き合ってくれてありがとう。

### 4. 神戸で留守番していた学生達との連携

神大では八名の指導学生が私の帰りを一日千秋の思いで待っていました(多分)。彼らとは(3.の件も含めて) Skype で頻繁に話すよう心がけ、週一度は必ず個人ゼミを行っていました。その甲斐もあってか、卒論、修論は落第生を出すことなくクリアできました。当時 M2 だった二人の学生には、9月から私が渡米することもあるので、修論を英語で書き、かつそれをジャーナルに投稿しようという提案をしたところ、なんと二人ともそれを実行し、達成してくれました(論文⑤, ⑥)。指導教員は必ずしも近くにいることがベストでなく、むしろ距離がある方が学生は大きく育つ場合もある、ということでしょうか。

【参考文献】論文① Uchiyama, Y., McWilliams, J.C. and Akan, C. (2017): Three-dimensional transient rip currents: Bathymetric excitation of low-frequency intrinsic variability, *J. Geophys. Res. Oceans*, **122**; 論文② Akan, C., McWilliams, J.C. and Uchiyama, Y. (2017): Topographic and coastline influences on surf eddies, *Ocean Modell.* (in revision); 論文③ Dauhajre, D.P., McWilliams, J.C. and Uchiyama, Y. (2017): Submesoscale coherent structures on the continental shelf, *J. Phys. Oceanogr.*, **47**; 論文④ McWilliams, J.C., Akan, C. and Uchiyama, Y. (2017): Robustness of surf vortices, *J. Fluid Mech. Rapids* (submitted); 論文⑤ Uchiyama, Y., Suzue, Y. and Yamazaki, H. (2017): Eddy-driven nutrient transport and associated upper-ocean primary production along the Kuroshio, *J. Geophys. Res. Oceans*, **122**; 論文⑥ Tada, H., Uchiyama, Y. and Masunaga, E. (2017): Impacts of two super typhoons on the Kuroshio and marginal seas off the Pacific coast of Japan, *Deep-Sea Res. Part I.* (in print)

## 研究報告（水文学・水理学）

都市安全研究センター/市民工学専攻 准教授 小林 健一郎

2012年10月に神戸大学に着任して以来、すでに5年が経過しましたが、お会いしたことのない会員の皆様も沢山いるかと思えます。都市安全研究センター/市民工学専攻准教授の小林健一郎と申します。よろしくお願ひします。私の専門は水文学・水理学になります。以下に私の研究テーマを5つほどご紹介させていただきます。

### (1) 流域降雨流出氾濫モデルの開発

流域全体での降雨－流出－氾濫過程のモデリングに取り組んでいます。我々のモデルでは、森林土壌水分量、流域内堤内地での浸水深・流速、河道流の水位・流量、また下水道（雨水幹線）の排水量などを計算できるような構成になっています。最近では兵庫県流域への適用例が多くなっており、都賀川、武庫川、佐用川流域などのモデルも構築しました。

### (2) 洪水保険に関する研究

流域降雨流出氾濫モデルを用いて、洪水保険に関する検討を行っています。関西広域連合とも、我々が構築した淀川流域モデルを利用したリスクファイナンスの検討を実施しています。洪水保険の検討では日本全体、あるいは流域全体を対象としたマクロな視点が必要になるため、その意味で我々の流出氾濫モデルが有効と考えられる事例が増えてきました。

### (3) 浸水計算モデルを用いた High Performance Computing に関する研究

浅水流方程式に基づく浸水モデルの精度と計算速度の向上に関する研究を実施しています。浸水モデルの精度・計算速度向上に関する研究は世界中でなされてきて、もう新しいことは何もない、と考えられている感もありますが、他方、京コンピュータのようなかつて存在しなかった計算機が開発されており、新たな時代の浸水モデルについて研究しています。

### (4) 西アフリカ・ボルタ川流域を対象にした研究

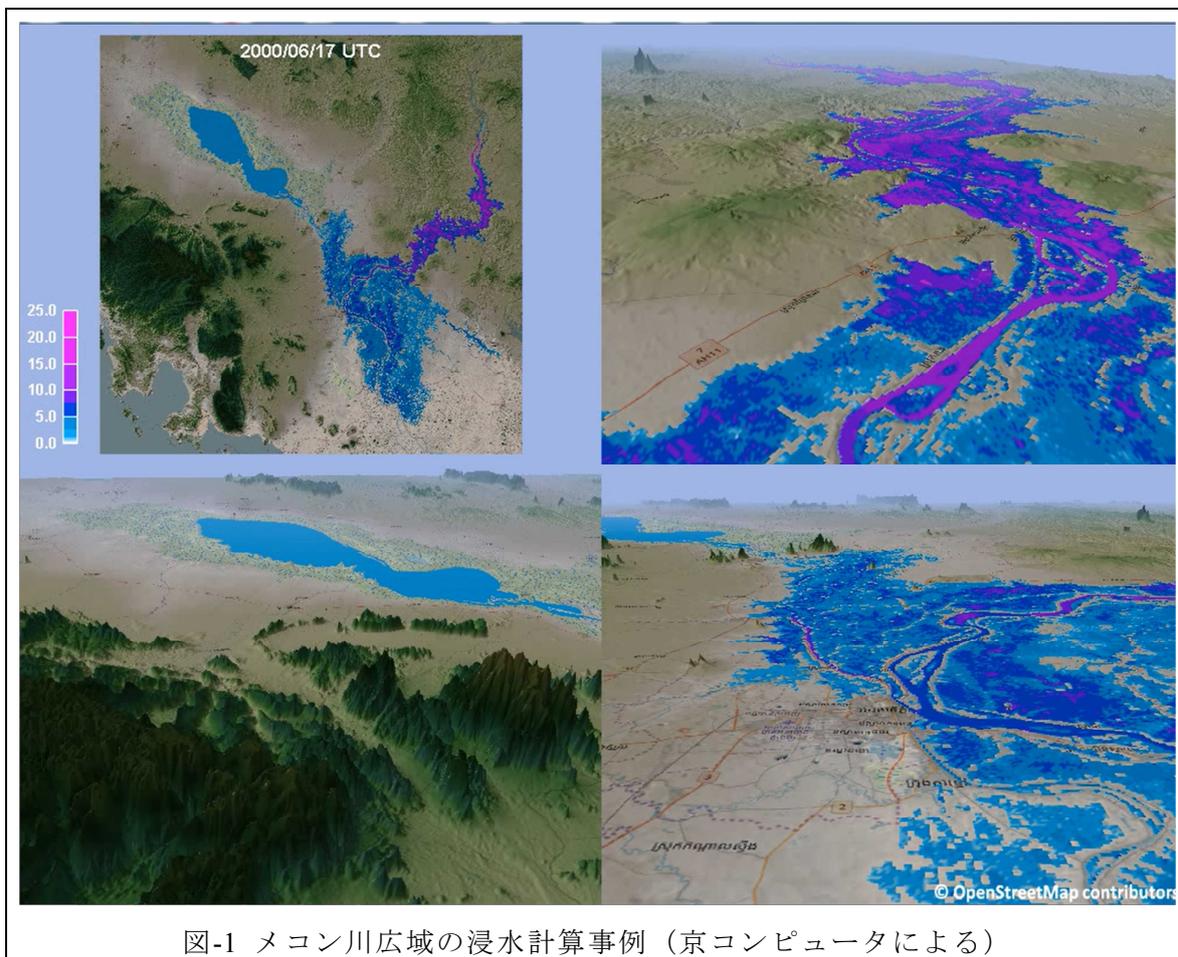
西アフリカ・ボルタ川流域については、SATREPS (JICA-JST) 事業 (2017年3月終了) を通して、当地の洪水研究に取り組んできました。エジプト・モロッコ以外では私にとって初めての本格的なアフリカ上陸だったため当初はかなり緊張しましたが、現在は懐かしくもあります。この活動を通じて、西アフリカ政府関係者と世界銀行との共同ワークショップも神戸大学で開催しました。

### (5) 気候変動による洪水・渇水変動に関する研究

全球気候モデルや擬似温暖化手法により推定された将来の降水変動にともなう洪水・渇水変動に関する研究を実施しています。統合的気候モデル高度化研究プログラムにメンバとして参加し、最近では特に東南アジアメコン川流域を対象にした気候変動研究を模索しています。メコン川の浸水シミュレーションの計算事例を図-1に示します。これは京コンピュータを用いて実施した計算です。気象学者による将来予測シミュレーションと、水文学・水理学の分野でかなり高度な浸水計算を組み合わせる

だけ気候変動リスクを低減することにつながるような研究を実施したいと思います。

今回は 5 つほど研究テーマについてご紹介させていただきましたが、実際には他にもテーマはあります。また、文章による説明だけではわかりにくい点もあるかと思えますので、是非お気軽に研究室をご訪問いただければと思います。



## 大学生活の思い出

M2 黒田 泰介（鋤田研究室）

「体育会サッカー部」

私の人生で最も本気になったことです。入部当初、高校まで弱小校に所属していた私は、部員達のレベルの高さに驚き、練習に付いていくことも出来ませんでした。その中で、毎日自主練を繰り返し、少しずつステップアップし、スタメンとして公式戦に出られた時の喜びは忘れられません。

「良い友人に恵まれた」

体育会サッカー部時代、楽しいことより辛いことの方が多かった私が最後まで部活を続けられたのは、部活の仲間や学部の友人達が励まし応援してくれたからです。就活のことで悩んだ時に相談に乗ってくれたのも友人達でした。思い返してみると、私が充実した学生生活を送れたのは、友人達の支えがあったからであると気付きました。

来年から社会人となる私は、壁にぶち当たることもあると思います。しかし、体育会サッカー部時代のように、毎日努力し、少しずつ成長し続け、壁を乗り越えていきたいです。そして、今まで自分が支えてもらった分、少しでも多くの人を支え、少しでも多くの方が充実した日々を送れるよう頑張っていきたいです。



写真 研究室フットサル大会にて

## 大学生活の思い出

M2 嶋田 倫昌 (竹山研究室)

神戸大学での6年間本当に充実した期間でした。実家の神奈川県から遠く離れたこの神戸の地で、初めての一人暮らしスタート。高校までの友達が全くいない環境で一人ぼっちの入学式から、はや6年の月日が経ち、今では多くの繋がりが出来ました。

学部生の頃は、長年続けてきたサッカーをしたいとサッカーサークルに所属し、長期の休みを利用して海外旅行、国内旅行に何度も行き、遊びつくしていました。その資金を調達するためにバイトに明け暮れ、模範的な学生ではなかったかもしれません(笑)

研究室に配属されてからは、より深いコミュニティができ、充実した日々を過ごす事が出来ました。研究はもちろんですが、それ以外でも日頃飲みに行ったり、年三回の定例旅行など行事もあつたりと、プライベートも充実できる研究室だったのでとても居心地が良かったです。また研究室の活動とは別に、自分の将来のために就職活動にも時間を使いました。10社近くのインターンシップにも参加し、最終的には自分の納得のいく形で就職活動を終える事が出来ました。

こんなにも沢山の経験ができ、充実した時間を過ごす事が出来たのは、先生、同期、先輩、後輩、神戸に来て出会った全ての人のおかげだと心から思っております。これからの社会人生活でも沢山の人の出会い、多くの経験をして、感謝の気持ちを忘れずに自分らしく成長していきたいです。6年間有難うございました。



研究室旅行 夏休み

## 大学生活の思い出

M2 勢川 尚毅（小池研究室）

“多くの機会を与えてくれた大学への感謝”。私がこの記事でお話したいことです。私は6年間の大学生活を通じて、沢山の方々に出会い、多くのことを経験し、そして大きく成長できたと感じております。この学科に入学していなければこれらの経験はなかった。そう確信しております。

私の大学生活は、研究室配属前と研究室配属後に分けることができます。研究室配属前は、サークルに注力する日々でした。私は学部時代アカペラサークルに所属しており、様々な場での演奏や、ライブ運営などを行っておりました。他大学からも人が集まる大きなサークルに所属することで多様性を学びました。入学当初、相手と会話する際に自分の考えばかりを押し付けていた自分でしたが、ここで出会った友人から、相手の背景を考慮して物事を考える大切さを学びました。今考えると、この経験が今の自分の人と接する際のスタンスの土台になったと感じております。

研究室配属後は、自分の未熟さを痛感する毎日でした。私は学部時代に国家公務員の資格を取得しており、勉学において怠惰であるという認識はありませんでした。しかし、小池淳司教授にご指導をいただき、自分の至らなさを実感いたしました。私は研究室配属前は勉強とは試験対策のことであると勘違いしておりましたが、小池先生のご指導を通じて、自分達は社会に出た時、正解のない社会問題に立ち向かっていかなければならないということを学びました。小池先生から学んだことをこの場で全て表現することは不可能ですが、研究室では社会問題に対する土木技術者としての物事の見方、そして教養の大切さを学ぶことができたと考えております。（もちろんまだまだ勉強することばかりですが…）

研究室配属後は大学以外で勉強する機会も設けていただきました。その例として、パリの OECD へのインターンシップと、ホノルルの JAIRS への海外研修を挙げたいと思います。前者は暁木会のご支援をいただき、4 回生の夏休みに 3 週間ほど世界最大のシンクタンクである OECD で勉強させていただきました。もちろん学ぶことも多かったのですが、第一に、自分の専門性のなさや英語能力の未熟さを実感いたしました。ここでの経験がきっかけで、私は自分の専門や英語の勉強により一層打ち込むようになりました。

その後、M2 の夏休みに大学の支援でホノルルの JAIRS で課題解決の思考法について学びました。OECD での反省を活かし、この時は多少の専門性や英語能力を身に着けた状態で参加させていただきました。それにより新たな発見がありました。その発見は、世界で建設的な議論を行うには、【文化理解(背景理解)】、【語学力】、【専門性】、そして【教養】、これらの四つを兼ね備えている必要があるということです。まだまだ未熟な身であるため、全てを完璧に兼ね備えているわけではございませんが、大学生活ではこれらの四つを学ぶ機会を与えていただき、その大切さを身に染みて実感することができました。サークルで知った背景理解の大切さ、研究室で教わった教養の重要性、OECD で実感した専門性と語学力、これらが合わさり、JAIRS では多少なりとも建設的な議論を行うことができました。

この四つの能力の重要性を知る機会と実践の場を与えてくださったこの大学に来られたことを喜ばしく思います。また最後になりますが、ここまで自分を支えてくださった家族、先生方、先輩、同期、後輩など様々な方々に改めて感謝の意を示したいと思います。

今後この大学で得たかけがえのない繋がりや教えを大切に、社会で頑張っていきたいと思います。



井料・小池研究室合同 BBQ の写真

## 第12回ホームカミングデイの開催報告

平成29年度 専攻長・学科長 教授 芥川真一

10月28日(土曜日)に、第12回神戸大学ホームカミングデイが開催されました。午前中の全学企画に引き続き、午後からの工学部キャンパスにおける学部企画にも120名程のご参加をいただきました。今回のホームカミングデイにおける工学部企画は下記の通りです。

1. 工学部長挨拶・工学部現況報告 (13:30~13:40)
2. 林真至神戸大学名誉教授 講演「モロッコで暮らしてみて」(13:40~14:20)
3. 神戸大学工学功労賞 授賞式 (14:20~14:30)
4. キャンパスツアー (14:35~15:10)
  - 喜多隆教授 講演「スマートな物質・材料研究」
  - レスキューロボットコンテスト及び学生フォーミュラ大会の活動紹介
  - \*工学部90周年記念・西代学舎記念展示 (AMEC3)
5. 学科別懇話会 (15:20~16:00)
6. 懇親会 (AMEC<sup>3</sup>) (16:00~17:30)
  - \*<併催企画>研究室見学会 (13:30~15:00)

5. の学科別懇談会では暁木会会長を始めとして数名の方にご参加いただき、市民工学専攻の近況についての紹介と意見交換が行われました。今年度はQuarter制が始まって2年目であることから、学部2年生が初めてのギャップタームを体験したことを受けてその状況が報告されました。実際には、3ヶ月程度の講義のない期間を利用して相当数の学生が海外体験(グローバルチャレンジ体験, 語学留学, 旅行など)や国内でのインターンシ

ップに積極的に参加し、それぞれ価値ある刺激を受けたことが紹介されました。このような新しい試みを実施するにあたって暁木会の皆様から多大なるご協力をいただきましたことを、この場を借りて重ねて感謝申し上げます。

## 第 27 回 大阪あかつき会例会報告

1. 日時 : 平成 29 年 10 月 13 日 (金) 18:00~20:30
2. 会場 : 道頓堀ホテル : 大阪市中央区道頓堀 2-3-25
3. 講演 : 神戸大学大学院工学研究科 澁谷 啓 教授(新制⑳回)  
演題 : 「神戸の地盤災害～過去・現在・未来」
4. 出席者 : 【会員】 35 名 【澁谷研究室 研究員】 2 名

平成 8 年にスタートした大阪あかつき会は、第 27 回の例会を迎える事になりました。今回は 27 回卒業の神戸大学大学院工学研究科澁谷啓教授により、ご講演を賜りました。

来賓者として鴻池一季(新制㉒回)KTC 理事長油井洋明(新制㉓回)暁木会会長をお招きし、総勢 37 名でとり行われました。

まず、北村雅敏(新制㉒回)大阪あかつき会代表より、永きにわたり開催してきた大阪あかつき会の経過及び現状についての説明の後、『今回の第 27 回大阪あかつき会を持って休会する』という旨の報告がありました。

寂しい限りではございますが、いつかこの大阪あかつき会が再開できることを熱望された代表のご挨拶となりました。

その後、澁谷先生の「神戸の地盤災害～過去・現在・未来」のご講演へと進み、大学の近況や活動の状況についての話題提供をいただき、大阪あかつき会の締めくくりにふさわしいご講演となりました。



写-1 北村大阪あかつき会代表ご挨拶



写-2 澁谷先生ご講演

講演会後の懇親会では、来賓挨拶・乾杯のご挨拶を鴻池一季(新制⑳回)KTC理事長のご発声により執り行いました。

鴻池理事長より、KTCの活動報告と工学部の近況及びクォーター制導入等、工学部の近況報告がありました。

引続き、油井洋明(新制㉑回)暁木会会長のご挨拶があり、油井会長からは、暁木会の活動状況および若手会員の獲得等の推進のご報告がありました。



写-3 鴻池 KTC 理事長 挨拶

その後、交流会では皆様の熱い思いや昔話に花が咲き、懇親を深めつつ会は進行し、皆様、席を移動しながら会の休会を惜しみつつ、あっという間に時が過ぎました。

最後に、大阪あかつき会の発起人の方々から挨拶及び中締めが行われました。まず、秦 登志夫(新制㉒回)先輩のご挨拶があり、平成8年から休会を含み21年続いた【大阪あかつき会】の会の趣旨や思い出をお話しされました。ひと際感慨深いものがありました。

そして中締めは池野誓男(新制㉓回)先輩によりとり行われました。第27回例会の閉会と休会のご挨拶後、1本締めで【大阪あかつき会】は幕を降ろしました。



写-4 油井暁木会会長 挨拶



写-6 池野先輩(発起人) 中締め



写-5 秦先輩(発起人) 挨拶



写-7 懇親会



写-8 懇親会



写-9 懇親会



写-10 懇親会



写-11 大阪あかつき会 集合写真

報告者：株式会社竹中土木 小川 修隆（院 28 回）

暁木みずの会 2017 報告

今年も恒例の『暁木みずの会』が平成 29 年 11 月 24 日（金）に開催されました。場所はいつもの神戸市北野会館で教授および現役学生と卒業 OB との貴重な交流の場となりました。この合同同窓会は旧) 3 講座・5 講座（水理工学、河川工学といった『水』に  
関与した講座）が対象で、現在では下記のような講座が対応するようです。  
私の学生時代からすると『土木学科』→『市民工学科』、『前期・後期』→『クォーター制』  
『女子学生の割合ほぼ 0%』→『約 10%』と大きく変化しております。  
やはり OB 人脈の有難さは卒業生が各業界の中堅クラスとなられた頃に初めて発揮される  
ものと思われま。現在、私は建設業の営業職であり、それを強く実感している今日この  
頃であります。仕事や趣味に関して気兼ねなく相談できる、そんな同窓会になれば幸いか  
と。今年 11 月 30 日（金）に開催予定です。例年以上に多数の方々に参加され、この会  
が盛り上がる事を期待しております。

神戸大学 大学院 工学研究科・工学部  
市民工学専攻・市民工学科 (旧)3 講座・5 講座に対応するもののみ抜粋

【人間安全工学講座】

教育研究分野	職位	氏名	専門分野
流域防災工学	教授	藤田 一郎	河川工学、画像情報工学
	准教授	小林 健一郎	水文学、水工学、洪水リスクマネジメント

【環境共生工学講座】

教育研究分野	職位	氏名	専門分野
環境流体工学	教授	内山 雄介	海岸工学、沿岸海洋学、波動、乱流、海洋モデリング
	助教	齋藤 雅彦	地下水工学、地盤水理学、浸透解析
水圏環境工学	教授	中山 恵介	水環境工学、応用生態学
地圏環境工学	教授	大石 哲	水文気象学、災害時の水資源、リスクコミュニケーション



報告者：矢野 芳広 C39

現役最前線

中央復建コンサルタンツ株式会社 総合技術本部 トンネルグループ 橋 直毅

私は、平成14年に修士課程を修了後、中央復建コンサルタンツ株式会社に就職し、現在は、主に道路、鉄道の山岳トンネルの設計に従事しています。近年担当した山岳トンネル詳細設計の事例を紹介します。

笹原山中バイパスは、静岡県三島市山中新田から同市笹原新田に至る延長  $L=4.3\text{km}$  の道路で、設計したトンネルはその区間のうち山中地区に位置する1号トンネル、2号トンネルです。地質は軟弱なローム、土被りは最大で約  $8\text{m}$  と小さく、通常であれば地上から開削して施工する方法を選択しますが、史跡山中城跡に近接し、史跡保全と歴史的景観保持の観点からトンネル構造で設計する必要がありました。

このトンネルの問題点は、軟弱なローム層が厚く堆積した未固結地山で、土被りが薄いだけでなく、新東名高速道路トンネル（3車線断面）とほぼ同じ大きさの扁平大断面（内空断面積  $126\text{m}^2$ ）で設計する必要があり、トンネル施工中のトンネルの崩落の防止、地表面沈下の抑制、トンネルの構造安全性に配慮したトンネル断面の設計、施工計画が必要となりました。

当該区間のローム層は、適度な水分を含むと切羽の自立性は高いという難しい物性を持つ地盤です。そのため、未知数の多いローム層の物性の本坑掘削前の確認（設計時物性値との解離）、先進坑が切羽中央に存在することで大断面本坑施工時の切羽の安定性向上、大断面の切羽崩落防止し、本坑上半に中央導坑を先進させる方針としました。また、先進坑の施工データから逆解析を行い本坑掘削の施工に反映できるように計測計画を行いました。ローム層は事前の調査において上半支保工の脚部の支持力が全く期待できなかったことやトンネル掘削時のゆるみを極力抑える必要があるため切羽に近い位置で上下半支保工に加えインバート支保工を用いてトンネル断面を一気に閉合させる「早期閉合」を可能とする補助ベンチ付き全断面工法を提案しました。



図-1 トンネル位置図

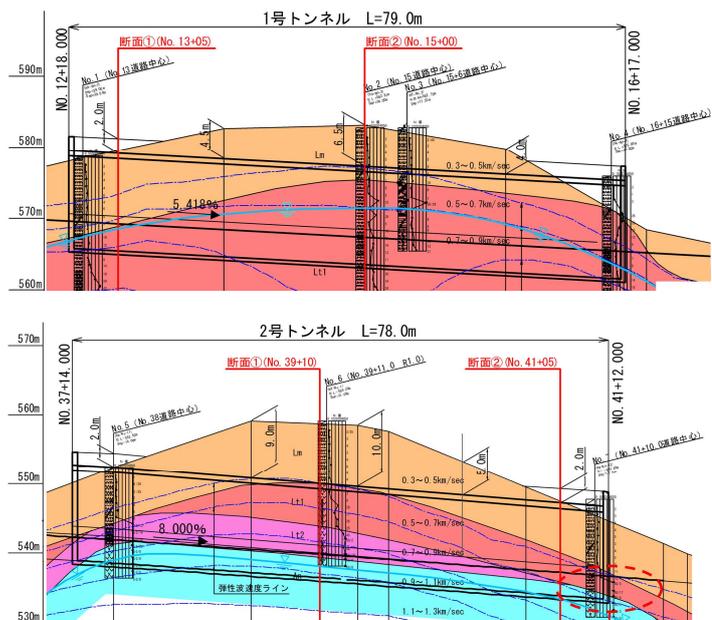


図-2 地質縦断面図

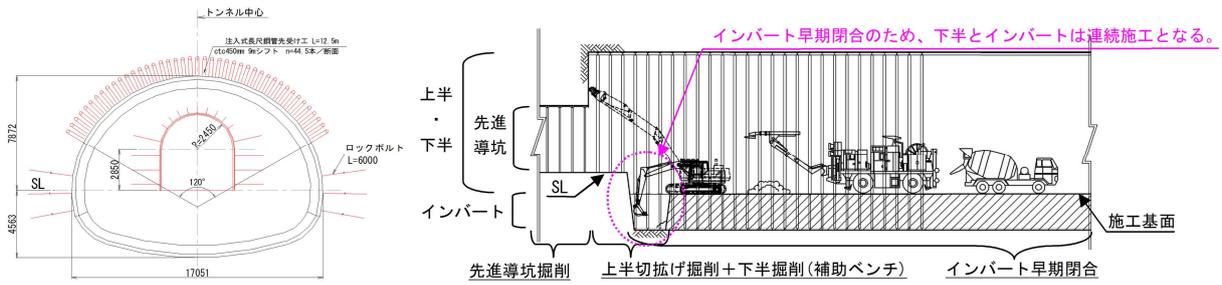


図-3 トンネル断面と中央導坑先進補助ベンチ付き全断面工法

新東名高速道路トンネル（3車線断面）でのトンネル断面を補助ベンチ付き全断面工法で施工するためには、切羽高さを極力抑える必要があるのと、土被りを確保する必要があったためトンネル断面を扁平化する必要がありました。そのため、トンネル断面の設計では、トンネル覆工の骨組み解析により、トンネルの全断面掘削を可能となるように切羽高を抑制するために、構造的に耐えうる範囲でトンネル断面のスリム化および扁平化（扁平率0.5）を図りました。

表-1 トンネル断面の扁平化検討

	中部地勢道路設計要領準拠断面 (当初設定断面) <扁平率 0.57>	提案断面 (採用) <扁平率 0.5>
断面図		
内空断面積	123.3 m <sup>2</sup>	126.3 m <sup>2</sup>
掘削断面積	182.0 m <sup>2</sup>	159.4 m <sup>2</sup>
覆工数量	45.5 m <sup>3</sup>	21.7 m <sup>3</sup>
経済性	1.0	0.67

その後トンネルは、施工の報告におきましては土木工学社発刊のトンネルと地下 Vol.45, No.8 および Vol.47, No.3 に報告されているように、無事にトンネルが貫通し、平成 28 年 3 月 12 日に開通しております。

以上、私が現在、取り組んできた業務の一部を紹介させて頂きました。近年は新設のトンネル設計のみならず、既設の変状トンネルの補修補強や維持管理に関する業務も増えてきており、鋭意取り組んでおります。今後もトンネル技術者として一層精進したいと考えておりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



Picture-1 完成状況

## 暁木一水会開催報告

協和設計(株) 坪本 正彦 ③9

平成 29 年 11 月 8 日に開催致しました第 143 回暁木一水会例会をご紹介いたします。今回は、神戸市建設局発注の西部処理場高段ポンプ棟他および北系水処理施設築造工事の建設現場にて見学会を行いました。

### ■工事目的と概要

神戸市西部処理場は、昭和 40 年の供用開始から約 50 年経ち、震災の影響もあり、老朽化が進んでいます。同北系処理施設の建設は、その第 1 系列（処理水量 8 万 m<sup>3</sup>/日）の受け皿として整備を進めておられるものです。



図-1 西部処理場 概要図

(出典：<http://www.city.kobe.lg.jp/information>)

- ・西部処理場高段ポンプ棟他築造工事（土木）  
 施工者：大成・日本国土・ハンシン特定建設工事共同企業体  
 工事内容：高段ポンプ棟（7.5 万 m<sup>3</sup>/日対応）の構築工事  
 躯体寸法 23.1m×57.7m、H=23.0m 場所打ち杭 φ 1200～1800、L=24.5～26.0m  
 地中連続壁（TRD 工法） t = 850mm、延長 165.6m  
 汚染土除去工 導水管築造工 DCIP1000mm、L=11.8m
  
- ・西部処理場北系水処理施設築造工事（土木）  
 施工者：戸田・岩田地崎特定建設工事共同企業体  
 工事内容：水処理施設の築造（設計水量 50,000m<sup>3</sup>/日）  
 最初沈澱池（5 池） 生物反応槽（5 池） 最終沈澱池（5 池） ろ過池（4 池）  
 塩素混和池 既成コンクリート杭 N=839 本  
 地中連続壁 L=26.0m～30.0m 延長 175.5m×73.5m

■見学会の様子

最初に、神戸市建設局中央水環境センター長 佐々木育夫氏より、北系処理施設の建設目的や工事概要を説明いただきました。

次に、高段ポンプ棟他築造工事の概要を説明いただきました。順次、高段ポンプ棟と水処理施設場の工事現場を見学させていただきました。

高段ポンプ棟工事では、仮設工・躯体工工事の様子、水処理施設場工事では仮設工の計画等を現場で見学しました。現場での省力化や健康・安全管理等の工夫についても丁寧に説明いただき、出席者も関心を高めていました。



写-1 工事概要説明：佐々木センター長

見学会の後、場所を楠公会館に移し、懇親会を開催致しました。例年は、比較的遠い建設現場見学が多いのですが、神戸市内の大規模な工事現場を見学させていただき、興味のある、有意義であった等々と所々で話題にのぼりました。暁木一水会では例会案内を暁木会 HP でお知らせしております。多数のご参加、お待ちしております。



写-2 高段ポンプ棟工事概要説明の様子



写-3 高段ポンプ棟工事現場



写-4 水処理施設現場見学



写-5 懇親会：楠公会館

## 土木工学科 29 回生（昭和 52 年度入学生）卒業 35 年会の開催

平成 29 年 11 月 18 日（土）ホテルモントレ神戸において、29 回生（昭和 52 年度入学）卒業 35 年会を開催しました。

当日は、肌寒い日ではありましたが、同窓生 15 名が出席、恩師の先生方も 3 名（櫻井先生、森津先生、福島先生）の参加をいただき、盛大にとりおこなうことができました。

前回の同窓会から 6 年 既に定年退職したもの、まもなく定年退職を迎えるものなど立場は個々に異なりますが、櫻井先生から自らの体験を踏まえ、「60 歳での定年退職は、そこで終わりではなく、新たな仕事に挑んでいくチャンスとしてとらえて欲しい」との激励の言葉をいただき、これから仕事を続けていくうえで大変参考になりました。また、同窓生からの近況報告では、それぞれ紆余曲折があったようで、驚くことばかりでした。

その後、有志で 2 次会を行いました。35 年の月日が流れたとは思えないくらい和やかで、最終電車ちかくまで楽しい時間を過ごすことができました。

（文責：29 回生 金藤 勤）



集合写真

## 広島支部総会報告

1. 日 時 : 平成 29 年 8 月 4 日 (金) 18 : 00～20:00
2. 会 場 : 広島ガーデンパレス
3. 出席者 : 【来賓】加藤 正司准教授、油井 洋明本部会長、戸川 学岡山支部幹事  
【支部会員】14 名
4. 議 事 : 平成 28 年度会務報告、平成 28 年度会計報告、広島支部役員  
本部総会報告、大学の近況報告

大学より加藤准教授、本部より油井会長、岡山支部より戸川幹事をお迎えして、平成 29 年度暁木会広島支部総会が開催されました。

総会では、支部事務局より会務報告・会計報告が行なわれ、油井会長より本部総会及び本部の活動予定、本部会計の安定化に向けた取り組みについての報告が行なわれました。加藤先生からは、学生の進路や新しい授業制度、近年の神戸大学受験生数などの話題提供があり、市民工学専攻志望の受験者が増加傾向にあることや、新しい授業制度の導入など、大学の近況について説明をいただきました。

総会后、懇親会が開催されました。久しぶりに参加された会員もおられ、会員方が活発に交流を深める姿が見られました。最後に、参加者皆様のご健康・ご多幸及び広島カープの悲願達成を祈念し、今年も盛会で閉会となりました。

報告者：暁木会広島支部事務局 復建調査設計(株) 木村裕行 (08C10M)



集合写真

## 岡山支部総会報告

1. 日 時                   平成 29 年 9 月 2 日（土）
2. 会 場                   ピュアリティまきび
3. 出席者                 来賓：片岡沙都紀助教、金治英貞本部副会長、支部会員 23 名

平成 29 年度の岡山支部総会は、大学より片岡先生、本部より金治副会長をお迎えし開催されました。今年度は開催時間を夕方に変更し、平年よりも多くの同窓生に参加いただきました。また、今年度からの取り組みとして総会前に講演の時間を設け、国土交通省（岡山河川事務所）の三戸所長より、近年の全国的な災害の傾向や身近な県内の河川事業などについて話を伺うことができました。

総会では、江原支部長の挨拶に続き、片岡先生から大学の近況等、金治副会長より本部の活動状況などを織り交ぜたご挨拶をいただき、支部助成金目録が贈呈されました。その後、支部役員の改選が行われ、江原支部長、桐野副支部長が共に留任で選出、会計報告も承認され、総会を滞りなく終えました。

総会後の懇親会は、吉井顧問による乾杯の発声により始まり、美味しいお酒や料理が進むにしたがって歓談の輪が広がり、終盤には、新規入会者の自己紹介や広島支部・小田委員よりいただいた広島銘菓・もみじ饅頭を賭けたじゃんけん大会を行うなど仕事や世代を超えて様々なお話を伺うことができ、楽しく、有意義な時間となりました。最後は、桐野副支部長の一丁締めで、盛況の懇親会を終了しました。

今後も支部長、副支部長のもと、いっそう暁木会の活動の輪を拡げていきたいと考えております。若手のみなさまのご参加もお待ちしています。

報告者 岡山支部事務局 岡山県土木部港湾課 吉田 正樹（C01）



集合写真



## 各支部の取組み

暁木会では全国に4つの支部があり、各支部で各種取組を行っています。是非、異動などの際には、お近くの支部にお声掛けください。総会等の行事予定のご連絡を差し上げます。なお、最近の活動概要をホームページに掲載しています。

暁木会支部のページ：<http://www.gyoubokukai.jp/shibu/shibu.html>

支部名	会員数	支部長	事務局（問い合わせ先）	総会予定
東京	700	野村 貢 <sup>㊹</sup>	森田 篤 <sup>㊸</sup> （前田建設工業(株)TEL03-5276-5166） E-mail: moritaa@jcity.maeda.co.jp	6月
東海	59	前田 勉 <sup>㊻</sup>	竹本 正和 C03（東邦ガス(株)TEL052-718-2871） E-mail: m_take@tohogas.co.jp	9月
岡山	46	江原 章 <sup>㊵</sup>	吉田 正樹 C01（岡山県美作県民局TEL0868-23-1482） E-mail: masaki_yoshida@pref.okayama.lg.jp	10月
広島	45	岡崎修嗣 <sup>㊺</sup>	木村 裕行 O8C10M（復建調査設計(株)TEL082-506-1867） E-mail: h-kimura@fukken.co.jp	7月

## 暁木一水会平成29年度活動報告&平成30年度活動予定

### 【平成29年度の暁木一水会の活動報告】

回	開催日	演 題	講 師
141	H29.5.10	平成29年度の主要施策 兵庫県 神戸市 大阪府	県土整備部総合治水課 課長 鶴崎 尚人(C32) 住宅都市局市街地整備部 担当部長 新見 達彦(C39) 港湾局堺泉北港湾事務所 維持課長 山下 奉文(C39)
142	H29.8.2	「神戸の地勢と都市形成史から考える日本の未来都市」	神戸大学先端融合研究環未来世紀都市学研究ユニット 構成員 小代 薫
143	H29.11.8	【現場見学会】神戸市西部処理場	
144	H30.2.7	「地下水と災害」	岡山大学 名誉教授 西垣 誠

### 【平成30年度の暁木一水会の活動予定】

回	開催日	演 題	講 師
145	H30.5.9	平成30年度兵庫県・神戸市・大阪府の主要施策	兵庫県、神戸市、大阪府職員
146	H30.8.1	未定	一般の講師など
147	H30.11.7	見学会	
148	H31.2.7	未定	母校の先生

**場 所** 楠公会館（湊川神社内）住所：神戸市中央区多聞通 3-1-1 電話：078-371-0005  
**会 費** 4千円  
**連絡先** 代表世話人 沖村 孝<sup>㊾</sup>  
 暁木一水会連絡調整役：TEL 072-627-9351（協和設計株式会社）  
 西本 憲生<sup>㊿</sup> E-mail Nishimoto@kyowask.co.jp  
 坪本 正彦<sup>㊽</sup> E-mail tsubomoto@kyowask.co.jp

## 暁木会平成 29 年度総会のご案内

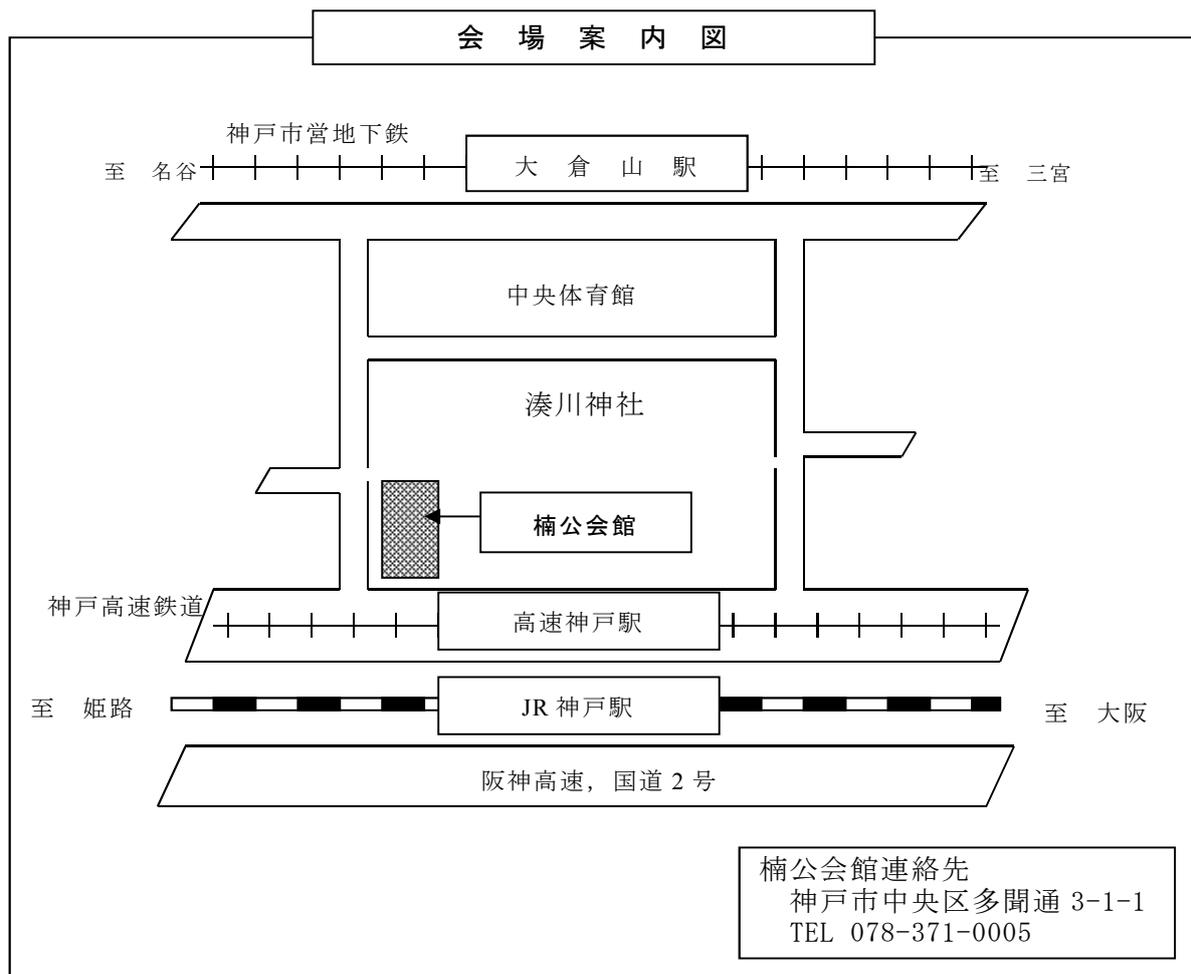
平成 29 年度総会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしくお願いいたします。

■日 時 平成 30 年 3 月 27 日（火） 午後 6 時～午後 7 時 20 分

■場 所 湊川神社 楠公会館  
（最寄駅は、JR 神戸駅、高速神戸駅または地下鉄大倉山駅）

■その他 総会終了後、同会館内で懇親会を開催しますので、あわせてご出席いただきますようお願いいたします。  
なお、会費（5,000 円）は当日徴収いたします。  
（懇親会 午後 7 時 30 分～午後 8 時 40 分）

■連絡先 常任幹事 能勢 正義④ TEL (078)322-6811 FAX (078)322-6084  
Email : info@gyoubokukai.jp  
ホームページ : <http://www/gyoubokukai.jp>



## 合同同窓会開催のご案内

暁木会の活性化の取り組みとして、卒業後約20年が経過した方々を中心とした合同同窓会を下記のとおり企画しました。研究ゼミの縦のつながり、職域の横のつながりなどから、卒業生間の交流の活性化を図りたいと思います。お誘い併せの上、何卒ご出席のほどよろしくお願いいたします。

■日 時 平成30年5月12日(土) 午後2時～午後5時

■場 所 神戸大学工学部食堂

■参加費 5,000円

■対 象 C96～C00 卒業生の皆さん

■備 考 参加を希望される方は下記担当までご連絡をお願いします。

連絡先：常任幹事 向井 淳(C99)

神戸市建設局中部建設事務所

Tel : 078-511-0515、Fax : 078-531-8333

e-mail : jun\_mukai@office.city.kobe.lg.jp

## 暁木会年会費納入のお願い

平成15年度から導入いたしました年会費につきましては、平成30年1月現在1,126名(会員総数3,772名)を数える会員各位にご理解とご協力をいただいています。会員の皆様には、暁木会の活動にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには、未だ十分な財源が確保できておりません。現在暁木会としては、新規会員の獲得に向け、今号でご報告した若手との意見交換会を開催するなど会員増強に向けて取り組んでおります。また、KTCのメーリングリストや、クラス幹事、各職場の世話人を通じて会費納入の依頼も行っているところです。会費会員へのサービスとしては、暁木会ニュースおよび会員名簿の発行をさせていただいております。会費納入の手続きが未了の会員各位には、手続き関連書類を送付いたしますので、次ページ下記の連絡先にご連絡くださいますようお願い申し上げます。

※ 年会費(3,000円)の集金方法につきましては、現在、集金代行業者(三菱UFJニコス株式会社)に委託し、会員の指定金融機関から年1回の自動引落しの制度を採用いたしております。

## 暁木会名簿改訂に関するお願い

来年度は、2年に1回の名簿の改訂版を発行する年となっております。会員の皆様には、情報の更新にご協力をお願いします。主な登録内容は下記の①～⑪です。変更がある項目について更新情報を記載の上、返信先メールアドレスまで更新情報の報告をお願いいたします。

- ①会員番号 ②ご氏名（ふりがな） ③旧姓名（ふりがな） ④卒業年  
 ⑤ご自宅住所 ⑥ご自宅電話番号 ⑦メールアドレス ⑧ご勤務先／所属／役職  
 ⑨ご勤務先住所 ⑩ご勤務先電話番号 ⑪ご勤務先メールアドレス  
 返信先メールアドレス ktc@mba.nifty.com

※ 件名は、「暁木会名簿情報更新（卒業回、ご氏名）」としてください。

その他

- ・「⑦メールアドレス」をご報告いただくと、「KTC より各種お知らせ」や「次回名簿改訂時の変更情報の照会」などを送信いたしますので、ご協力をお願いいたします。
- ・⑦と⑪のメールアドレスは同じでもかまいません。

今後はさらに充実した暁木会活動報告をお届けできるよう取り組んで参りますので、皆様方のお一層のご協力をお願いいたします。

## おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様には心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひその様子を寄稿下さい。その他、ご意見ご要望等がございましたら、下記連絡先までよろしく申し上げます。

発行者：暁木会

E-mail：info@gyobokukai.jp

連絡先：常任幹事 広報 G 中西 弘 C97

株式会社竹中土木大阪本店

TEL：06-6252-4084 FAX：06-6271-0743

E-mail：nakanishi-h@takenaka-doboku.co.jp